



ウィンザー・イートン (Windsor and Eton) へようこそ

Royal Windsor Information Centre, The Old Booking Hall, Windsor Royal Station

☎01753 743900 (24 hour information) Email: windsor.tic@rbwm.gov.uk

www.windsor.gov.uk

ウィンザー・キャッスル (WINDSOR CASTLE) – 1066年のノルマンディ公によるイングランド征服、いわゆる「ノルマン・コンクエスト」の後にウィリアム1世（征服王）によって現在のウィンザー・グレートパーク「王家の狩猟の森」にウィンザー城は築かれました。ヘンリー2世から、クイーンエリザベス2世の時代までの歴代の君主達によって増改築がなされてきました。今でも、女王と王室の人々はプライベートな週末のほとんどをこの城で過ごし、各国の国家元首が公式訪問した際の大切な歓迎の場所でもあります。そのほか、ロイヤルコレクションのうちの多くの著名な絵画や芸術品があり、華麗な城内のいたるところに飾られています。訪城すると、儀式用の広間、城の境内、絵画ギャラリー、クイーンメリーのドールハウス、聖ジョージ礼拝堂などを見学することができます（チャペルが公開されない日曜日を除く）。お越しの際には、見学時間に少なくとも2時間は見ておいてください。10月～3月の期間は、セミステートルーム（女王が公式の接待に使用）は追加料金なしで一般公開されます。城の会館時間は午前9時45分、最終入場は3月～10月は午後4時、11月～2月は午後3時です。閉館日がありますので、よく確認の上ご来城ください。

衛兵交替式 – 衛兵の交替式は、4月～7月の毎日、8月～3月までは1日おきに行っています（日曜日はお休みです）。これは、ウィンザー城の呼び物と断言していいでしょう。ウィンザー以外では、バッキンガム宮殿でしかこの儀式を見ることができません。衛兵には、通常音楽隊の伴奏がつきますが、天候次第ではお休みの場合もあります。大通りからお城へと衛兵が行進するのを見ることができます。衛兵の交替式を見るには、お城の入場券を購入の上、敷地の下側 (Lower Ward) まで行きます。

イートン・カレッジ (ETON COLLEGE) – イートン校は、貧しい奨学生70人に無料で教育を施し、修了後はケンブリッジのキングスカレッジへと進ませるためにヘンリー6世が1440年に創設した学校です。創設初期の生活も厳しいものでした。そこら中をねずみが走りまわり、生徒は外に出て冷たい水だけで体を洗ったと言われています。現在では世界でも最も優れた学校として名高く、13歳か

ら18歳までの1280人の男子生徒と一緒に勉学に励みます。イートン校は、歴代18人の英国首相を輩出してきた名門です。ウィリアム王子とハリー王子もこの学生でした。1850年代までさかのぼる伝統の制服は、黒の燕尾服とチョッキ、縦じまのズボンです。学校を訪ね、回廊、チャペル、今日も残されている最も古い教室、そしてイートン・ライフミュージアムをご覧ください。入場券はロイヤル・ウィンザー・インフォメーションセンターでお求め下さい。お城を右手にテムズ・ストリート (Thames Street) へと下ります。道路を横切って橋を渡り、イートン校へ入ります。校門が右手に見えてくるまでイートン・ハイストリート (Eton High Street) を進みます (徒歩約10~15分)。

その他の見所 – ウィンザーでは見どころや面白い体験も幅広く選べます。テムズ川の川くだりや、**屋根なしのバス**で市街観光もできますし、**ウィンザー・グレートパークの馬車**も楽しい乗り物です。訪れた人は誰でも楽しめる催し物が見つかるはずです。街をめぐるだけでも魅力がいっぱいです。キャッスル・ヒル (Castle Hill) の石畳から出発し、ちょっと入った所の**ギルドホール・アイランド (Guildhall Island)** と呼ばれるこの場所では、17世紀からの歴史の面影を今に伝える様々な興味深い建物が見学できます。チャーチストリートの「古き国王の首 (The Old King's Head)」では、1648年のチャールズ1世の処刑にちなんだ飾り版をはめ込んだ記念壁があります。ここでウィリアム・シェークスピアが、『ウィンザーの陽気な女房たち』を執筆したと言われています。そこからわずか数戸を行くと、チャールズ2世が最愛の愛人ネル・グウィン (Nell Gwynne) を囲っていたと言われているバーフォードハウス (Burford House) に出ます。クイーンシャーロット・ストリート (Queen Charlotte Street) は長さがわずか16メートル以下で、イギリスでもっとも短い通りとして記録されています。右に曲がるとマーケットクロス・ハウス (Market Cross House) は、今では「傾いた家のティーハウス (Crooked House Tea Rooms)」となっています。最初に建設されたのが1687年といわれているこの建物のその傾いた外観は、生乾きの木材を使用したことによるといい、時代の流れの中で、このような形に歪んでしまいました。マーケットクロス・ハウスの次は、**ウィンザー・ギルドホール (Windsor Guildhall)**。2005年4月にはチャールズ皇太子とカミラ・パーカー・ボウルズさんの結婚式の華やかな舞台となった場所です。建築家サー・クリストファー・レンによって1690年に館は完成。中に入って見ると、中央の柱が天井に触れていないことに気がつくでしょう。伝統によれば、当時の役人はレンの思い入れに反して、柱が安全に立てられることを強く要求しましたが、レンは負けじとばかり柱を1インチだけ天井から低く造った、と語り継がれています。他にも、ウィンザーの心躍らせる歴史の物語について、インフォメーションセンターで各国語の翻訳版でもご覧いただけます。

ショッピングとお食事 – **ピーズコッドストリート (Peascod Street)** の三角形の歩行者専用交差点、**キングエドワード・コート (King Edward Court)** と**ウィンザー・ロイヤルショッピング (Windsor Royal Shopping)** は、車に煩わされることな

い快適なショッピング環境で、有名ブランド店と小さなオリジナルショップがユニークに混在しています。Gap、Fenwicks、French Connectionなども出店しています。築100年の鉄道駅跡地を開発して作られたウィンザー・ロイヤルショッピングは、街に新しいモードの風を送り込んでいます。メインショッピング街やその周辺には、おみやげ店も豊富です。

ウィンザーでの食事も見逃せません。城からそれほど歩くこともなく、16種類の料理の中からは、好みに合う味がきっと見つかるはずです。歩き回って疲れたら、気軽にパブやレストランで休憩を入れましょう。Royal OakやDrury Houseなど、パブレストランの老舗にもぜひお立ち寄りください。Café Rouge、Costa、Ha! Ha! Bar & Canteenなど、モダンなコンチネンタル風のカフェやワインバーを楽しんではいかがですか。

さらに詳しい情報 – ウィンザーとRoyal Borough 周辺都市についてのさらに詳しい情報は、ロイヤルウィンザー・インフォメーションセンター (Royal Windsor Information Centre) を訪ねてみてください。フレンドリーなスタッフが最高に快適なご滞在をお手伝いします。ウィンザー・ロイヤル・ステーションのオールド・ブッキング・ホールにあり、年中無休で開館しています。

www.windsor.gov.uk もご覧ください。